

## PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 01-290608

(43)Date of publication of application : 22.11.1989

---

(51)Int.Cl.

A01N 59/12

---

(21)Application number : 63-121152

(71)Applicant : SUNSTAR INC

(22)Date of filing : 18.05.1988

(72)Inventor : KOBAYASHI MITSUNOBU  
MURAKAMI YUJI  
TSUYUKUCHI MASAOKI

---

### (54) GERMICIDAL COMPOSITION

(57)Abstract:

PURPOSE: To obtain a germicidal composition, consisting of an aqueous solution prepared by blending iodine with a compound capable of complexing the iodine, iodide, iodate and perfume having iodine odor masking effects, capable of exhibiting excellent germicidal power for a long period without unpleasant iodine odor.

CONSTITUTION: A germicidal composition consisting of an aqueous solution prepared by blending (A)  $\leq 1$  wt.%, preferably 0.01W0.25 wt.% iodine with (B) 1W50 wt.% compound, selected from polymers (e.g. PVA), surfactants, alcohols and polyols (e.g. polypropylene glycol or glycerol) and capable of complexing the iodine, (C) 0.05W3 wt.% iodide, e.g. sodium iodide, (D) 0.01W0.6 wt.% iodate, e.g. potassium iodate, and (E) 0.001W5.0 wt.% perfume (e.g. anisole, acetophenone or menthone oil), stable in iodine solutions and having effects on masking of iodine smell without damaging stability of the iodine.

⑤ 日本国特許庁(JP)

⑩ 特許出願公開

⑨ 公開特許公報(A) 平1-290608

⑤ Int.Cl.<sup>4</sup>

識別記号

庁内整理番号

⑥ 公開 平成1年(1989)11月22日

A 01 N 59/12

7057-4H

審査請求 未請求 請求項の数 1 (全9頁)

⑨ 発明の名称 殺菌剤組成物

⑪ 特 願 昭63-121152

⑫ 出 願 昭63(1988)5月18日

⑬ 発 明 者 小 林 三 伸 大阪府高槻市南総持寺町 6-38-204  
⑭ 発 明 者 村 上 有 司 大阪府枚方市村野東町71-20  
⑮ 発 明 者 露 口 正 昭 兵庫県川西市向陽台 3 丁目 3-58  
⑯ 出 願 人 サンスター株式会社 大阪府高槻市朝日町 3 番 1 号  
⑰ 代 理 人 弁理士 森 岡 博

明 細 書

1. 発明の名称

殺菌剤組成物

2. 特許請求の範囲

(1) ヨウ素；ポリマー、界面活性剤、アルコールおよびポリオールから選ばれた1種以上のヨウ素を錯化する化合物；ヨウ化物；ヨウ素酸塩；並びにヨード臭マスキング効果を有する香料を配合した水溶液からなることを特徴とする殺菌剤組成物。

3. 発明の詳細な説明

産業上の利用分野

本発明は、ヨード系殺菌剤組成物に関する。さらに詳しくは、有効成分としてヨウ素を安定に配合したヨード系殺菌剤組成物に関する。

従来の技術および課題

ヨウ素は殺菌力に優れかつ人体に対して毒性が極めて低いため従来より殺菌剤成分として広く用いられている。これら公知のヨウ素組成物は、ヨウ素、ヨウ化物およびヨウ素錯体形成可能な水溶

性液体からなるものが多い。しかしながら、これらのヨウ素水溶液には、特有のヨード臭を有しているへの刺激性があり、使用時不快感を与えることが多い。

本発明者は、ヨードを有効成分としつつも、このような使用時の不快なヨード臭を呈しないヨード系殺菌剤組成物について種々検討を重ねた結果、本発明を完成するに至ったものである。

課題を解決するための手段

本発明はヨウ素；ポリマー、界面活性剤、アルコールおよびポリオールから選ばれたヨウ素を錯化する1種以上の化合物；ヨウ化物；ヨウ素酸塩；並びにヨード臭マスキング効果を有する香料を配合した水溶液からなることを特徴とする殺菌剤組成物を提供する。

本発明の殺菌剤組成物におけるヨウ素の配合量は、1重量%以下、好ましくは0.01~0.25重量%である。配合量が1重量%を超えると使用時にヨードの色によって不快感を与えることが多い。

また、本発明組成物にはヨウ素を結化するポリマー、界面活性剤、アルコール、ポリオールが配合される。

該ポリマーとしては、例えばポリビニルピロリドン、ポリビニルアルコールおよびポリアクリル酸等が挙げられる。これらは糊剤の硬めおよびヨウ素を安定化する。

また、界面活性剤としては、アルキルベンゼンホルン酸塩、アルキル硫酸エステル塩、アルキルエーテル硫酸エステル塩、 $\alpha$ -オレフィンホルン酸塩、アルカンスルホン酸塩等の陰イオン性界面活性剤、塩化ベンザルコニウム、アルキルトリメチルアンモニウムクロライド、ジアルキルジメチルアンモニウムクロライド等の陽イオン性界面活性剤、ポリオキシエチレンソルビタン脂肪酸エステル、脂肪酸アルカノールアミド、ポリオキシエチレンアルキルエーテル、ポリオキシプロピレンアルキルエーテル、ポリオキシエチレンポリオキシプロピレンブロック重合体、ポリオキシエチレンアルキルフェニルエーテル等のノニオン性界

これらヨウ素を結化する化合物は単独または併用してもよい。これらの配合量は1〜50重量%であるのが好ましい。

ヨウ化物としては、ヨウ化ナトリウム、ヨウ化カリウムなどが挙げられ、組成物中、0.025〜5重量%、好ましくは0.05〜3重量%含まれる。

ヨウ素酸塩としては、ヨウ素酸カリウム、ヨウ素酸ナトリウムなどが挙げられ、組成物中0.005〜1重量%、好ましくは、0.01〜0.6重量%含まれる。

つぎに、本発明にて配合されるヨード臭マスキング効果を有する香料としては、特定の天然香料、合成香料が配合される。これらは単独であるいはその1種または2種以上が混合して使用されてもよい。

かかる合成香料としては、エーテル系、ケトン系、アルデヒド系、エステル系、アルコール系などのうち特定のものが挙げられる。

エーテル系のものとしては、アニソール、ベン

面活性剤、アミノ酸塩型（例えば、アルキルアミノプロピオン酸メチル、塩酸アルキルアミノエチン等）、ペタイン型（例えば、ステアリルペタイン、ラウリルジメチルアミノ脂肪酸ペタイン、2-アルキル-N-カルボキシメチルヒドロキシエチルイミダゾリウムペタイン等）、硫酸エステル型（例えば、N-ラウリル-N,N-ジメチルアミノプロピル硫酸等）、スルホン酸塩型（例えば、N-ラウリル-N,N-ジメチルアミノプロピルスルホン酸等）、リン酸エステル型（例えば、レシチン等）等の両性界面活性剤が挙げられる。

また、アルコールとしては、例えばエタノール、プロパノール、イソプロパノール等が挙げられ、これらはヨウ素の可溶化を助ける働きを有する。

また、ポリオールとしては、プロピレングリコール、グリセリン、ポリエチレングリコール、エチレングリコール、ブチレングリコール、ソルビトール等が挙げられ、これらは保湿および凍結を防止する。これら溶剤は単独であるいはその1種または2種以上を混合して用いてもよい。

ジルフェニルエーテル、1,8-シネオール、p-クレシメルメチルエーテル、ジフェニルオキシド、フロロパール、ネロリンプロメリア、トレフロ、ピゴローズ、ヤラヤラが挙げられる。

ケトン系のものとしては、アセトフェノン、ベンゾフェノン、カンファー、ジヒドロイソジズモン、イソメントン、メチルアミルケトン、メチルイオノン、クリソライド、グマスカンアルファ、トナリド、 $\epsilon$ -カルボン、メリロットおよびムスクトニ1（クリソライド）が挙げられる。

アルデヒド系のものとしては、テトラヒドロレトラール、アミルシナミックアルデヒド、フロラゾン、ヘキサデルアルデヒド、アニスアルデヒド、ベンズアルデヒドおよびマンダリンが挙げられる。

エステル系のものとしては、ステラリルイソブチレート、テトラヒドロムギルアセテート、 $\alpha$ -シクロデシルアセテート、フレューレン、コニフェラン（ $\alpha$ -ヒューミルシクロヘキシルアセテート）、テトラヒドロリナリルアセテート、ベルドッ

クス、*l*-メントリルイソバレレート、エチルブチレート、ミルセニルアセテート、ボルニルアセテート、イソボルニルアセテート、セドレニルアセテート、セドリルアセテート、*p*-*t*-ブチルシクロヘキシルアセテート、シクランニルアセテート、ヘプタパート、シクロヘキシルイソバレレート、リナリルアセテート、ジヒドロテルビニルアセテート、ベンジルアセテート、アリルアミルグリコレート、シンナミルプロピオネート、ベンジルイソブチレート、*n*-ブチルサリシレート、ジメチルベンジルカルビニルアセテート、メチルシンナメート、ジメチルベンジルカルビニル*n*-ブチレート、ステラリルアセテート、フェニルエチルアセテート、フェニルエチルジメチルカルビニルアセテート、ステラリルプロピオネート、イソアミルサリシレート、メチルプロピオネートおよびアリルアミルグリコレートが挙げられる。

アルコール系のものであるとして、シンナミックアルコール、ジメチルベンジルカルビニル、フェニルエチルアルコール、ステラリルアルコール、

ルド、レモンオイルディスティルド、ローズブルガリア、ローズアブソリュートエキゾチック、ユウカリオイル、スギオイル及びアニスオイルが挙げられる。

前記のマスキング効果を有する香料は、それ自体ヨード液中で安定であり、ヨウ素の安定性を害することなく、ヨード臭をマスキングする効果に優れている。これに対して、他の香料では、化学構造が非常に類似したものであっても、ヨードの安定性を害する。例えば、本発明に用いられるリナリルアセテートは、ヨードの安定性を害さないが、アセチル化されていないリナロールはヨードの安定性を害する。

これらヨード臭マスキング効果を有する香料の配合量は用途、使用条件等によって適宜変更してよいが、一般的には、殺菌剤組成物中に0.001~5.0重量%添加するのが好ましい。0.001%重量%以下ではヨード臭を十分にマスキングすることができず、5.0重量%以上ではヨードの安定性を害し、また経済的でない。

ジメトール、*cis*-3-ヘキセノール、テトラヒドロゲラニオール、ロザルパ、サンタノール、テトラヒドロリナロール、ボルネオール、セドロール、シトロネロール、テルビネオール、テトラヒドロムグオール、チンペロール、ベルドール、イソボルネオール、3,5,5-トリメチルシクロヘキサンオールおよびメントールが挙げられる。

その他のものとしては、カンフェン、オイゲノール、ガラキソリド、ガンマデカラクトン、ジャスマール、メチルサリシレート、ムスクモスゲン、フェニレート、アルファピネン、ローズフェニン、サンタレックス、ベルドラシン、シーサイド、ライムブースター、シトラタール、ユーカリプタス、ガンマデカラクトン、イソラルディンおよびマルトールが挙げられる。

一方、天然香料としては、メントンオイル、サンダルウッドオイル、シダーウッドオイルバーバニア、セラニウムテルペン、バインニードルオイル、ファールオイルシベリアン、アミリスオイル、バインオイル、ライムオイルメキシカンディスティ

なお、本発明殺菌剤組成物は、クエン酸塩、リン酸塩などの緩衝剤を用いて酸性を中性から酸性の範囲に維持する。

本発明殺菌剤組成物は、各成分を公知の方法により混合して製造される。また、本発明殺菌剤は頭髪、皮膚洗作用、あるいは台所、家庭用の洗剤などに混合して使用される。

さらに、本発明の殺菌剤組成物には、用途に応じて適宜、その性能を損なわない範囲において公知の成分が配合されてよい。

#### 実施例

つぎに試験例、実施例によって本発明をさらに詳しく説明する。

#### (試験例)

第1表に示す各種の単体香料を用いて、次の組成のヨード系殺菌剤を調製した。

成 分	配合量(重量%)
ヨウ素	0.01
ヨウ化ナトリウム	0.25
ヨウ素酸カリウム	0.2
P.O.E(S)アルキルエーテル	10.0
クエン酸	0.2
単体香料(第1表に記載)	0.3
水	残部
(pH=5.0)	

得られた各ヨード系殺菌剤をガラスビンに入れて密閉した。これを40℃の恒温室に30日間保存した後の有効ヨウ素の残存率を貯蔵安定性とした。残存率は、香料を配合しないものを0(コントロール)とし、初期の有効ヨウ素濃度を100としたとき、30日後の香料残存率を有効塩素濃度測定法により測定し、下記の基準で評価した。

## (貯蔵性)

○:70%以上

△:50%以上70%未満

×:50%未満

また、このヨード系殺菌剤のヨード臭のマスクング効果を次の方法により評価した。

得られた各殺菌剤について、下記の基準で判定を行った。

◎:ヨード臭が感ぜられず、快適な芳香を与える。

○:ヨード臭が感ぜられない。

△:少しヨード臭がある。

×:ヨード臭が多分にある。

## (本発明試験例)

香 料	安定性 試験例	
アセトフェノン	○	○
アミルシミックアルデヒド	○	○
イソアミルサリシレート	○	○
アニスアルデヒド	○	○
アニソール	○	○
ベンズアルデヒド	○	◎
ベンゾフェノン	○	○
ベンジルアセテート	○	◎
ベンジルフェニルエーテル	○	○
ボルネオール	○	◎
ボルニルアセテート	○	◎
イソボルニルアセテート	○	◎
p-1-ブチルシクロヘキシルアセテート	○	○
n-ブチルサリシレート	○	○
カンフェン	○	◎
カンファー	○	○
l-カルボン	○	◎
セドレニルアセテート	○	○

セドリルアセテート

○ ○

1,8-シネオール

○ ○

シンナミックアルコール

○ ○

シンナミルプロピオネート

○ ◎

シトロネロール

○ ◎

p-クレシルメチルエーテル

○ ◎

シクラニルアセテート

○ ◎

シクロヘキシルイソバレレート

○ ○

ジヒドテルピニルアセテート

○ ◎

ジヒドロイソジャスモン

○ ○

ジメチルベンジルカルビノール

○ ○

ジメチルベンジルカルビニルアセテート

○ ○

9,10-エポキシ-1,2-ジフェニル

○ ◎

ジメチール

○ ◎

ジフェニルオキサイド

○ ○

オイザノール

○ ◎

フロロパール

○ ○

グラクソリド

○ ○

ヘプタバート

○ ◎

cis-3-ヘキセンノール

○ ◎

特開平1-290608(5)

ジャスマール	○	○	サンタレックス	○	○
リナリルアセテート	○	○	サンタノール	○	○
イソメントン	○	◎	スチラリルアルコール	○	○
メリロット	○	◎	スチラリルプロピオネート	○	◎
2-メンタリルイソバレレート	○	○	テルピネオール	○	○
メチルアミルゲトン	○	◎	テトラヒドログアニオール	○	◎
メチルシンナメート	○	○	テトラヒドロリナノール	○	◎
メチルアイオネン	○	○	テトラヒドロリナリルアセテート	○	◎
メチルプロピオネート	○	○	テトラヒドログオール	○	◎
クリソリド	○	○	テトラヒドログルアセテート	○	◎
ムスクモスゲン	○	○	チンペロール	○	◎
ミルセニルアセテート	○	○	トレフロン	○	◎
ネロリンブロメリア	○	○	2,5,5-トリメチルシクロヘキサノール	○	◎
スチラリルアセテート	○	◎	ペンドール	○	○
フェニレート	○	○	ベルドックス	○	◎
フェニルエチルアセテート	○	○	ベルドラシン	○	◎
フェニルエチルアルコール	○	○	ビゴローズ	○	○
フェニルジメチルカルビニルアセテート	○	○	ヤラヤラ	○	○
アルファピネン	○	○	コニフェラン	○	○
ローズフェノン	○	○	イソボルネオール	○	◎
ダマスコナルファ	○	◎	バインニードオイル	○	○
シーサイド	○	◎	ファールシルベリアン	○	○
フロラゾン	○	○	アミリスオイル	○	○
シトラタル	○	○	バインオイル	○	○
トナリド	○	○	ライムオイルメキシカンディスティルド	○	◎
ユーカリプタス	○	○	レモンオイルディスティルド	○	◎
フューレン	○	○	ローズブルガリア	○	○
スチラリルイソブチレート	○	○	ローズダブソリュートエキゾチック	○	○
ヘキサデシルアルデヒド	○	○	ユーカリオイル	○	◎
アリルアミルグリコレート	○	◎	スギオイル	○	○
ベンジルイソブチレート	○	○	アニスオイル	○	○
cis-シクロデシルアセテート	○	○	メントール	○	○
エチルブチレート	○	○	(比較試験例)		
ガンマデカラクトン	○	○	香 料	安定性	72時間
ガンマウンデカラクトン	○	○	ウンデシルアルデヒド	×	×
イソラリデン	○	◎	アウランチオール	×	△
メントンオイル	○	◎	シトロネラール	×	△
サンダルウッドオイル	○	○	ベンジルアルコール	○	△
シダーウッドオイルバージニア	○	○	ベンジベンゾエート	○	△
セラニウムテルペン	○	○	セドロールクリスタール	○	×

特開平1-290608(6)

ラマリ	○	△	シクロデシルアルコール	○	△
α-クレシラルセテート	△	△	ジヒドロリナロール	△	×
オクチルアルデヒド	×	○	ジヒドロミルセノール	△	×
ノニルアルデヒド	×	○	ジメチルフェニルエチルカルビノール	○	△
デシルアルデヒド	×	○	エチルホルメート	×	×
ベルガモットオイル	△	△	グラニオール	△	△
シクラメンアルデヒド	△	△	グラニールセテート	△	△
ヘリオ	△	×	グアイオールセテート	○	△
cis-3-ヘキセニルサリシレート	△	△	ヘリオトロピン	○	△
リアール	△	×	インドールビュア	△	△
シトラール	△	△	イソクロシトラール	△	△
ヒノキオイル	△	○	イソシクロシトラール	×	△
ペパーミントハク	△	△	カパノール	△	△
レモンオイルテルペン	△	○	リモネン	△	△
グラノニトリル	△	△	リナロール	△	○
グレープフルーツオイル	△	○	ε-メンチルアセテート	○	△
シトロパール	△	△	メチルアントラニレート	△	×
メントン	△	○	α-メチルベンジルアルコール	○	△
マンダリンナル	△	×	メチルサリシレート	△	△
マンダリンアルデヒド	△	△	ミラクアルデヒド	△	×
ネロール	△	△	イランイラン	△	△
ネオリドール	△	△	イリスコンク	×	△
l-8-cis-8-ノナジエンノール	△	×	ウインターグリーンリーフオイル	×	○
ロサールバ	△	×	エミレジノイド	×	△
テルピニルアセテート	○	△	オクモスレジン	×	×
テトラヒドロシトラール	×	⊗	オレンジオイルバレンシアブレンド	×	○
パニリン	×	○	オレンジオイルテンブル	×	○
オリボン	×	△	ガルバナムレジノイド	×	△
リナロールオキサイド	○	△	クローバッドオイル	×	△
グマセニン	△	△	グレープフルーツオイルフロリダ	△	○
チムレッド	×	×	シダーリーフ	△	△
メチルナフチルケトン	○	△	ジャスミンアブソリュートコモロ	△	○
リグストラール	×	△	シブレス	△	△
o-ヒューチルシクロヘキサノ	○	△	ジュニパーベリースーパー	×	△
ダウノール PM	○	×	スベアミントイル	×	○
マルトル	○	△	セージスクラリーハイブレス	×	○
マンダリンアルド	○	△	ゼラニウムブルボン	×	△
メチルナフチルケトン	○	△	タイムレッド	×	△
ムスクケトン	○	△	トルレジノイド	×	×
アロモイス	△	△	ナフメグオイル	△	△

カミールオイルロマン	○	△
ファールサムアブソリュート	×	△
パチュリーオイルライト	△	○
ベルガモットサンベルガブテン	△	△
ペパーミントマドラス	△	○
モスドゥエンセレクトハイブレス	△	△
ラバジンオイルスーパーセクション	×	△
ラベンダーモンブラン	△	○
レモンバインズEスフィア70479797	△	○
ガヤクウッドオイル	×	△
ベチバブルボン	×	×
レモンガラスオイルセイセイ	×	○
レモンオイルディスティルドブラジル	△	○
ブチグレンパラグアイ	△	△
ジュニアブソリュート	△	△
ミモザブソリュート	×	×

## 実施例2(ハンドクリーナー)

次の組成のヨード系殺菌剤を調製した。

成 分	配合量(重量%)
ヨウ素	1.0
ヨウ化ナトリウム	5.0
ポリビニルピロリドン	5.0
ラウロイルサルコシナトリウム	20.0
グリセリン	10.0
ヨウ素酸カリウム	0.2
香 料	0.2
水	残部

上記香料は次の単体香料を調合したものを使用した。

成 分	配合量(重量%)
アニソール	2.5
ベツフェノン	2.5
シネオール	2.5
ムスクモスゲン	2.5

## 実施例1(成体シャンプー)

次の組成のヨード系殺菌剤を調製した。

成 分	配合量(重量%)
ボビドンヨード	0.02
ヨウ化カリウム	0.1
ヨウ素酸カリウム	0.2
トリメチルアミン	12.0
トリメチルアミン	9.4
ヤシ油脂肪酸ジエタノールアミド	5.0
クエン酸	0.2
香 料	0.3
水	残部

上記香料は次の単体香料を調合したものを使用した。

成 分	配合量(重量%)
セドレニールアルコール	2.0
ジヒドロタービニルアセテート	4.0
ステラリルプロピオネート	4.0

## 実施例3(台所洗剤)

次の組成のヨード系殺菌剤を調製した。

成 分	配合量(重量%)
ヨウ素	0.5
ヨウ化カリウム	2.5
P.O.E(12)アルキルエーテル	5.0
P.O.E(3)トリメチルアミン	25.0
トリメチルアミン	8.0
エタノール	5.0
ヨウ素酸カリウム	0.2
香 料	0.1
水	残部

上記香料は、次の単体香料を調合したものを使用した。

成 分	配合量(重量%)
タイムイミドキシノンチスチル	5.0
レモンオイルディスティルド	5.0



特開平1-290608(8)

実施例4 (浴室用洗剤)

成 分	配合量(重量%)
ヨウ素	0.01
ヨウ化カリウム	0.1
P.O.E(12)アルキルエーテル	5.0
直鎖7-オキソヘプタノール硫酸トリウム	12.0
クエン酸	3.0
ヨウ素酸カリウム	0.2
香 料	0.3
水	残部

上記香料は、次の単体香料を調合したものを使用した。

成 分	配合量(重量%)
ベルドール	30
ヤラヤラ	30
ベンゾフェノン	40

実施例5 (クレンジング)

成 分	配合量(重量%)
ヨウ素	0.2
ヨウ化カリウム	2.0
P.O.E(8)アルキルエーテル	4.0
直鎖7-オキソヘプタノール硫酸トリウム	15.0
クエン酸	3.0
ヨウ素酸カリウム	0.2
シリカ	20.0
香 料	0.5
水	残部

上記香料は、次の単体香料を調合したものを使用した。

成 分	配合量(重量%)
テトラヒドロムグオール	50
カンファー	50

実施例6 (浴室・家具用洗剤)

成 分	配合量(重量%)
ヨウ素	0.02
ヨウ化カリウム	0.1
P.O.E(12)アルキルエーテル	3.0
ヨウ素酸カリウム	0.2
クエン酸	0.2
香 料	0.1
水	残部

上記香料は、次の単体香料を調合したものを使用した。

成 分	配合量(重量%)
バニニードルオイル	50
バニオイル	50

実施例7 (運動乾洗剤)

成 分	配合量(重量%)
ヨウ素	0.05
ヨウ化カリウム	0.5
P.O.E(12)アルキルエーテル	10.0
イソプロパノール	3.0
カルボキシメチルセルロース	1.0
蛍光染料	0.3
クエン酸	0.2
ヨウ素酸カリウム	0.2
香 料	0.3
水	残部

上記香料は、次の単体香料を調合したものを使用した。

成 分	配合量(重量%)
ユーカリオイル	40
アニスオイル	30
ゼラニウムテルベン	30

## 実施例8(殺菌剤組成物)

<u>成 分</u>	<u>配合量(重量%)</u>
ヨウ素	1.0
ヨウ化カリウム	5.0
P.O.E(12)アルキルエーテル	20.0
ヨウ素酸カリウム	0.2
クエン酸	0.5
香 料	0.5
水	残部

上記香料は、次の単体香料を調合したものを使用した。

<u>成 分</u>	<u>配合量(重量%)</u>
バインニードルオイル	50
スギオイル	50

発明の効果

このように本発明のヨード系殺菌剤組成物は、不快なヨード臭がマスキングされると共に、ヨードの安定性が害されることなく優れた殺菌力が長期にわたり発揮され長期貯蔵が可能となる。